

一緒に過ごす時間が記事をつくる

砂浜でヨガ教室を開いている女性に取材に行くと、海に散歩に来た男性と出会い、そのままお茶をすることになった。記者である森は会社に戻ってくるのがいつも遅い。

日が出ているうちは外にしているようにしている。

人が集まる場所に足を伸ばす。新しい店に入ってみる。

そんな森の好奇心が扉を開き、新たな出会いが生まれる。

一緒に時間を過ごし、信頼関係を築き、ようやく話してもらえることがある。何より人と話すことが大好きだ。

「森さんだったら話していいよ」と言われたこともある。

そこから得られるかけがえない情報を森は記事にする。

とはいえ、自分の記事が世に出るのはいつも不安だ。

森は大分の山間部の出身だ。衰退していく地元を見て、

何か力になりたいと思った。大学で地域活性を学び、

新聞記者として、地域を元気にしたいと考えた。

今まで書いた記事には全てその想いが込められている。

「記事見たよ、ありがとう」と地域の人に言われるために
今日も森はどこかを歩いている。

新聞を配ることは、気を配ること。